

くらしナビ

生活

美容皮膚科やエステティックサロンなどで「ムダ毛」の脱毛施術を受ける子供が増えている。SNS(交流サイト)や広告の影響、施術の低価格化などが背景にある。ただ、契約に関するトラブルも起きており、未成年のうち施術する必要のあるのかも含め親子の話し合いが重要になる。

エステ店大手のTBCグループ(東京・新宿)が運営するエビレは7歳以上の子供が対象の「キッズ脱毛」を手掛けている。肌を光を当ててムダ毛を除去・減毛する。水泳やバレエを習っている子供が腕や脚、ワキなどの脱毛を希望するケースが多い。

「親世代の30〜40代は脱毛施術を受けた経験のある人が多く、抵抗感があまりないようだ」(TBCの山下真里奈さん)。2011年の開始当時には1%未満だったエビレの新規顧客に占める子供の割合は、21年には33%になった。

専門家が手掛ける脱毛は①医療行為として医療機関のみが実施できるレーザー脱毛②エステが手掛けている光脱毛――が代表的な2つの施術法だ。日本で20年以上の歴史があり、効果や安全性は実証されつつあ

子供をふたり産んだ。いずれも成人しており、自身の生活を謳歌している。男女ひとりずつ5歳離れているので、まるで一人っ子がふたりいるようなのんびりとした子育て時間だった。

きょうだい喧嘩、というのを見たことがないのは、親として本当に幸福だったと思う。私は子育て中、周りとうまくやろうと、公園デビューとか、ママ友がどうのという問題をこごとく捨ててきた変人だったが、母の時間は思いのほか楽しかった。

まず子供たちには「とにかくお母さんを笑わせなさい」と命じながら暮らした。夫が単身赴任中は「時の権力者」

エステで脱毛 子供が望んだら

契約トラブルも、結論急がず

る。ただ、トラブルがないわけではない。

「10代の娘がエステで脱毛施術の契約をした。解約しようとしたら、施術済みの代金数十万円を追加で払えと言われた」「10代の娘が医療脱毛をしたら皮膚がかぶれた。中止を申し入れたら違約金を請求された」。国民生活センターには未成年の脱毛施術に関する相談が寄せられる。

前者のケースは「月1000円」など安価な費用をうたうSNS上の広告にひかれて娘だけでエステに向き、6年間通い放題で55万円というコースを毎月の分割払いで契約していた。「親の同意書がない」と言う。その場で娘自身が書

くよつ促されたという。娘は半年で4回の施術を受けた後に解約を申し入れた。エステ側は「55万円は最初の6回の施術に対する費用で、その後を受ける通い放題の分は無償」という契約だ。6回のうち実施済みの4回分の費用を払う必要がある」と主張した。契約書を見ると、その旨は書いてあったが、口頭での説明はなかったという。

消費者契約法に詳しい弁護士正木純生さんは「契約時には書面のやり取りだけでなく、料金や解約の条件を口頭でも確認したほうがよい。解約時などはたとえ契約書に書いてあっても、特定商取引法で保護される場合もある」と話す。



脱毛施術はある程度の痛みに耐えられる年齢であることが必要(東京都目黒区のウォブクリニック中目黒)

腕や脚などの毛は生えなくなっても問題は無いのか。美容皮膚科医の高瀬聡子さんは「産毛は花粉や黄砂など刺激物が肌に直接付きにくくなるなど、必ずしも『ムダ毛』とは言い切れない」と話す。ただ、「生命維持に必要な毛かと言わ

よつになるのはだ。親子関係のシグナルを専門・エス・シー(田)社長の山本「美容大国といのスターの気持れた雑誌の写真的に接している影響し、『肌がこと』に価値を増えている」山本さんは、したいと言いつい「頭ごなしに意思が変わらなほどは時間を置する。友人関係かない、夢中に見つからないが背景に存在する」という。「脱べてのコンプレ解放されるなど待を持っていなを配る」と助言

	光脱毛	医療レーザー脱毛
効果	制毛・抑毛	発毛組織を破壊
施術者	特に資格は必要なし(エステなど)	国家資格を持つ医師・看護師
回数	12~18回	5~8回
痛み	痛みは少なめ	部位によっては痛みを伴う
価格	1回あたりは比較的安い	高め

子供が脱毛したいと言い出したら(山本直美さんのアドバイス)

- 認める・認めないにかかわらず、すぐに結論を出さない
- 認める場合は費用について話し合う。親が負担する際は子供が将来返済するという約束をするのがベスト
- 過度なコンプレックスや他の悩みなどが背景にある場合は、根本的な解決方法を探る

10~15歳 効果に不安定さ

脱毛施術のうち、医療機関レーザー脱毛は高価だが、効果が得られるまでの施術回数すむ。また、医師の監督があるので、皮膚科のトラブルが対応しやすい。一方、主にエビレの光脱毛は施術中の痛みが、より少なく、比較的安価に利用できる。脱毛機器は毛が生える周期の太さや濃さに応じて照射皮膚科医の高瀬さんは「10歳までは周期や毛の太さが不安定で、効果が不安定という懸念のバリアー機能も十分ではないので、大人以上に術後の状態を配る必要がある」と指摘す。カミソリなどの自己処理ける恐れがあり、施術のほつきいとは言い切れないが、特脱毛は照射の際にゴムではじな痛みを伴うことがあり、じれない子供は要注意だ。(砂

プロムナード 桜木 紫乃

子育てパラダイス



を謳歌したものだ。母親は「ルール」が大好きなので、すべてに自分に都合のいい決まり事を発布する。

「今日から、晩飯を食べるときは面白い話大会にしよう。なんといつことはいない、お母さんがウケる話が出来た

ら、1話につき百円もらえるのだ。基準はあくまでもお母さんがウケるかどうか。これを天下と言わずしてなにが天下か。1か月も経つ頃には、だいたい母親の笑いの傾向が掴めたらしく、組み立てが上手くなっていった。

「登校のとき右肩にカラスをのせて歩いているおじさんがいた」で、「それいいね」と返せば、「下校のときは、両肩にのせて」となる。

「うーん、惜しい」、翌日はリベンジが入るので、こちらも構える。

おそろく最優秀すべらない

話は「全校生徒のなかで、ゴム長靴で登校しているのは俺だけだ」と記憶している。毎日がそんなライブなので、不機嫌が許されなかったのは気の毒だった。ご飯くらい笑いながら食べようという母なりの策であったが、思春期の子供たちに笑いを要求し続けるのもどうだったのか。

バカをアピールする兄を見ながら育った娘のほうは、ポジティブにも甘えの多い哲学者だ。高校を卒業するまで、その生意気さを利用して、本になる前の原稿チェックをさせていた。もちろんバイト代は払う。1冊につき5000円。笑い話を考えるより効率がいいと思ったのか、けっこういい

い相棒だった。「お母さん、この一文をこっちに移したほうが分りやすくいいと思う」勝ち誇った幼い顔が、懐かしいくらい遠くなった。ひきつけを起して救急車を呼んだりしたけれど、大きな病気も怪我もなく育ってくれた。いま、ふたりとも自分の移りで暮らしている。月々の生活は苦しいだろうが、一度も金銭的に頼られたことがない。

悩み事はお父さんにするので扱ねたら、「オカンに話すとネタになる」せいで知り反省した。過去のエッセイで、息子のテスト答案をネタにしたことをまだ覚えてい

たよつだ。母は、「ヒタミンAB」に「喜ぶ物書きなのでその息も、日野菜と魚と肉のバランスをつけている」とい

「いまの決まり事は稼いで得」。自だけは大切にしたい。この時代において、ただ覚悟の要る解している。

健康と思いがけいことを教えてあげたい。子育て時間だった。成人した彼らといま最高に言。